

夜墨水を下る

服部南郭

金竜山畔江月浮ぶ

江揺ぎ月湧いて金竜流る

扁舟住まらず天水の如し

兩岸の秋風二州を下る

【作者】服部南郭(一六八三〜一七五九年)(天和三年〜宝暦九年)・江戸中期の儒者で漢詩人。名は元喬(もとたか)、字は子遷(しせん)、通称小右門(こうえもん)、南郭は号。他に周雪(しゅうせつ)、観翁(かんおう)の画号がある。京都に生まれる。父の死により十四歳江戸に移り菰生徂徠(おぎゆうそらい)に師事し、のち塾を開いて子弟の教育に当たる。舟を浮かべて待乳山のほとりに遊ぶことを好み、風流儒雅の道を開いた人といわれ、唐詩を研究しその普及を計った。「唐詩選国字解七卷」など著書も多い。宝暦(ほうれき)九年没す。年七十七歳。

【語釈】*墨 水：墨田川。 *金龍山：浅草寺(せんそうじ)の東北の墨田川のほとりにある待乳山(まつちやま)。 *扁舟：小舟

【通釈】金龍山のほとり隅田川に月影が浮かんでいる。水の流れてつれて月光のくだけ散るさまは、ちやうど江中に月が湧いて金色の龍が流れてゆくようである。私の乗る小舟は流れてとどまることもなく、天と水が一つになったような美しい眺めの中をすすみ、武蔵と下総(しもふさ)の境のあたりを兩岸の秋風におくられて下つてゆくのである。当時の武蔵野のどかな風景が詠じ出されている。